

2013 年大学入試センター試験 【講評(速報)】 地学 I

《総評》

出題分野、大問数、設問数やすべての大問で **A・B** の 2 分割されているなどの構成は昨年と同じであったが、1 つの設問で複数の知識を問う問題が増えるとともに、正誤問題では、普段あまり触れられない知識が問われた。結果として、全体の難易度は、昨年度と同じかやや難化したと考えられる。理科の試験時間が 2 科目連続となり、受験生が減ったことで受験生のレベルが上昇しており、今後もこのレベルの出題が続くだろう。

《第 1 問》固体地球

A は地球の鉛直構造の問題。すべて正誤問題で、問われる知識量が増えている。内容的には常識的なものが多かった。**B** はアイソスタシーをテーマとした出題で、問 5 の空欄補充は易しいが、問 6 の計算問題はやったことがあるかないかで差が付いたかも知れない。

《第 2 問》造山帯・火山・岩石

A は造山帯・火成岩・変成岩を、また、**B** は火山噴火をテーマとした出題。問 1 は典型問題だが、地質断面図から各構造の順序を追うのに手間取ったのでは？問 3・問 4・問 6 の正誤問題は正解以外の選択肢を深く考えてしまうと迷うだろう。

《第 3 問》地質・地史

A は地質図をテーマとした出題。問 1 は、空間的な構造を把握できていれば難しくない。問 2 はやや難しい問題だが、X 地点を通る断面と断層 D との交点の標高が 760m であり、C 層と B 層の境の標高が 780m であることがわかれば正解できたはず。**B** は地球と生命の歴史に関する出題で、問 5・問 6 とともに細かい知識が問われている。バージェス動物群やクックソニアを知っている受験生はどれほどいただろうか。

《第 4 問》気象・海洋

A は低気圧と前線に関する出題で、標準的な出題であった。今回の難易度では絶対に落とせないところ。問 4 では標高により気圧が変化する理由をあまり深く考えていなかった生徒が多かったかも知れない。**B** は海水の循環に関する出題。問 6 は正答を選ぶのが難しい。

《第 5 問》天文

A は恒星とその進化に関する出題。問 1・問 2 は、HR 図上における恒星の進化の経路と HR 図の軸の意味、主系列星の質量と明るさなどの知識を問う問題。問 3 は計算問題だが、それほど難しくはない。**B** は宇宙の歴史に関する問題。問 4・問 5 は易しいが、問 6 は難問。オリオン座 ϵ 星（3 つ星の東端の星）は知らなくてもいいが、太陽の 20 倍の質量をもつ O 型星の寿命を知っていないと正答は選べない。